

建築研究資料

Building Research Data

No. 108

December 2007

住宅・住環境の安全・安心に関する 継続的な意識調査および分析

Continuous survey and analysis concerning residents' attitude on
safety performance of their houses and living environments

布田健、樋野公宏、萩原一郎、山口修由、眞方山美穂、小島隆矢、
立花直美、島田貴仁、吉村英祐、寺内義典、若林直子

Ken Nunota, Kimihiro Hino, Ichiro Hagiwara, Yoshinobu Yamaguchi,
Miho Makatayama, Takaya Kojima, Naomi Tachibana, Takahito Shimada,
Hidemasa Yoshimura, Yoshinori Terauchi, Naoko Wakabayashi

独立行政法人 建築研究所

Published by

Building Research Institute

Independent Administrative Institution, Japan

はしがき

現在、わが国において、「安全で安心な建築・都市」が広く国民に求められていることは論を俟ちません。各種調査から住宅・住環境に対する国民の期待について調べてみても、事故・犯罪等への対策、すなわち日常的な安全・安心に関わる項目が多くなっています。加えて、国土交通省重点施策においても「ユニバーサルデザインの考え方に基づく国土交通政策の構築」「安心で暮らしやすい社会の実現」など、安全・安心に関連するキーワードが並んでいます。

これら建築・都市に関わる安全・安心性能向上に向けた研究・開発として、(独)建築研究所では、第2期中期計画の重点研究課題の一つとして「住宅・住環境の日常的な安全・安心性能向上のための技術開発（平成18～20年度）」をスタートさせました。

本建築研究資料は、その一環として実施された安心・安全に関する意識調査の結果をとりまとめたものです。これまでの同テーマに関する住宅・住意識においては、居住地域や建物種別ごとに、また防災・防犯・日常生活事故などの分野ごとに細分化して検討されるものがほとんどでした。それに対して、ここに報告する調査は、主に事故・犯罪、バリアフリーなどの日常災害を対象とした安心・安全に関する内容の意識調査を全国規模で実施し、日常生活での事故や災害等の項目に対して人々が実際に感じている「不安度」、「安全－危険度」の違い、安心・安全に関する対策・行動等について、分野横断的な検討を行っている点が大きな特徴となっています。

この意識調査は、3カ年の研究プロジェクト期間中に毎年実施を計画しているものです。継続的な調査を行うことで、安心・安全に対する人々の意識や考え方をより多面的に明らかにするとともに、社会的な事件・事故が及ぼす人々の意識の変化等を把握することが、この調査の目的の一つとなっています。

本建築研究資料が、今後の安全・安心性能向上にむけた各方面の取り組みの一助となれば幸いです。

平成19年11月

独立行政法人建築研究所
理事長 山内泰之

